

# 第12回 住まいとコミュニティづくりNPO交流会

2016年9月10日(土)、フクラシア東京ステーション・6D会議室にて2015年度の助成対象団体の活動報告会を開催しました。各団体の活動内容につきましては、「第23回住まいとコミュニティづくり活動助成報告書」をご覧ください。



開会の挨拶 松本昭氏(財団専務理事)

## DOCUMENT

### 各団体報告

#### 西岬海辺の里づくり協議会(千葉県館山市)

活動のテーマ: 茅葺き屋根のある暮らしのサイクルを再生する取組

<報告の概要>

かつての茅葺き屋根のある里の風景を再生することを目標に活動している。昨年度は、地元住民の協力を得て再生可能な茅場を確保し茅場の整備を実施した。現在は活動の中心が学生なので、今後は、地元住民の継続的関与が重要だと考える。



報告者  
加瀬 ひかりさん



**質問** 茅屋根の葺き替えは、段葺きだけで行っているのですか?

**回答**

現在は、里でとれる茅の量が少なく、安定性を確保できないため少ない茅で葺く段葺きとしています。今後は茅場を整備して茅を刈りためて、旧家の屋根にふさわしい風格のある厚い茅葺きにしていきたいと思います。



久田見卓氏

#### 特定非営利活動法人 醸造の町 根田屋町おこしの会(新潟県長岡市)

活動のテーマ: 豪商の館「機那サフラン酒本舗」の保全と地域活性化活動

<報告の概要>

地域を代表する歴史的建造物「機那サフラン酒本舗」の保存と活用を目指している。昨年度は、トイレや流しの設置、来訪者を迎えるスペースづくりを行った。勉強会の報告書を指標として、保存と活用に向けて今後も活動を続けていく。



報告者  
平沢 政明さん



**質問** 中越地震を経て、企業の力が前面に出た活動から草の根の市民の活動に発展してきたと感じます。メンバー間で意識の変化などはありましたか?

**回答**

首脳部、ボランティア、企業の三者がうまく連携している点が当団体の優れているところだと感じます。



関由有子氏

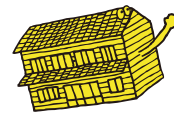
建物も庭も素晴らしいですが、それだけにとどまらず、古文書や歴史など市民の生活文化の調査研究も進めてほしいです。

#### 岩首談義所(新潟県佐渡市)

活動のテーマ: ようこそ棚田へ! 就農シェアハウスを集落に

<報告概要>

都市住民との交流事業を軸とした旧小学校や棚田の有効活用から地域の活性化を目指している。地域住民の関与を重んじながら集落の入り口にある空き家をシェアハウスへ改修した。棚田や祭りなどを地域の暮らしからなくさないために、今後も合意形成を大切にしていきたい



報告者  
新田 聡子さん



**質問** シェアハウスを今度どのように活かしていきたいとお考えですか? 長期的な定住の仕組みなどは考えていますか?

**回答**

当初地域外の就農者を募るためのシェアハウスとして構想していましたが、地域住民や住民の親族関係の利用が多くなっています。また、特に広報を行っていませんが、地域外からの来訪者もあって運営としては成り立っています。



丁志映氏

今後、コミュニティハウスのような活用や福祉的な拠点としての可能性もあり得るのではないかと思います。

#### 特定非営利活動法人 伊勢河崎まちづくり衆(三重県伊勢市)

活動のテーマ: 伊勢河崎商人館のイノベーションを核とした地域活性化

<報告概要>

歴史的なまちなみの保全を軸に住民が誇りをもって住み続けられるまちづくりを目指している。再生から13年超を経た旧酒問屋「伊勢河崎商人館」を現代の視点で見直し新たな価値を付加した。収蔵資料の整理や物語化を図るなどして今後も商人館及び地域の価値・ブランド力を高めていきたい。



報告者  
高橋 徹さん



**質問** 商人館に特化した活動だと地域の問題とどのようにつながるのでしょうか? 面的な広がりが見えるようにする必要があるのではないのでしょうか?

**回答**

商人館を活用したイベント(コンサート、寄席、アートスクール、市)をはじめ、子どもの町並み見学会、町家(空き家)の改修など多様な活動を展開しています。また、現在、景観の重点地区指定に向けた取り組みも正念場を迎えているところです。



山下馨氏

## ダッズ村プロジェクト（京都府城陽市）

活動のテーマ：ダッズ村 父子が創る父子の為の地域子育て支援拠点

<報告概要>

パッケージ化された社会から離れて、父子の創造力が喚起され実践できる場づくりを目指している。昨年建てた拠点に引き続き、同じ敷地内の納屋をもう一つの拠点にすべく、ほぼ自力で改修している。1・2号館を拠点に遊び心が活かされた環境を整え、柔軟な考え方・継続的仕組みを子どもに伝えたい。



報告者  
荒井 圭一郎さん



**質問** 活動する意欲はどこから湧いてくるのですか？  
子どもへの思いが大きいのでしょうか？

**回答** 父親が子育てに関わっていないことから生じる問題について、臨床心理士から指摘されたことが活動の発端となりました。子どもの現状などを見て、何とかしないといけないと痛感し、幼馴染の父親同士で動き始めました。

**質問** 地域との関わりや地域的な広がりについてお聞かせください。

**回答** メンバーの友人が中心に関与してくれているのですが、現状では地域住民に理解されているとは言い難いです。今後、地域住民に関与してもらえるシステムを構築していく必要があると感じています。



久田見卓氏

## 特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト（広島県尾道市）

活動のテーマ：尾道別荘建築「みはらし亭」再生による茶園文化の発信

<報告概要>

町の中心に点在する空き家の再生事業により町並みの保全と次世代のコミュニティの確立を目指す。空き家の大規模別荘建築を行政の支援やクラウドファンディング、多様な人的支援を得て改修した。今後は作家が滞在制作できるように検討し、若手デザイナーによるグッズの展開を図っていききたい。



報告者  
豊田 雅子さん  
神田 太郎さん



**質問** プロジェクトの魅力が会員を呼び込んでいるように感じます。  
実際に動く会員を多く獲得している秘訣はどのようなことですか？

**回答** 高台の斜面地等活動対象エリアの特性があるからこそ、今後のコミュニティの助けとなる若い人に関わってもらう必要があると思っています。若い人の目にとまりやすいように紙のチラシのデザインなどにも気を配っています。また、活動への関わり方への敷居を下げています。興味を覚えて関わりたい人、建築家やアーティストのように職能を十分に発揮したい人等、多様な関わり方を受け入れています。また、こういうまちにしたいという若い人の思いが、まちの姿としてみえてくるようにしたいと意識しているのですが、それが見えるリアリティや結果に手ごたえを感じる若者の参加が多い理由ではないでしょうか。

**質問** 旅館業、飲食業の連携の秘訣をお教えてください

**回答** 日本遺産に選定されたこともあり、こちらからの要望などに対して、法の壁をなんとかうまくくぐらせてあげようという行政の意識の変化を感じます。

**質問** 建築サイドから考えると、プロとアマが混在した作業にはハラハラさせられるのですが、職人サイドの意識はどのようなもののでしょうか。

**回答** 今回扱ったのは大きな物件だったので、地元の大手ゼネコンにも声をかけたのですがどこもお断りでした。そこで、メンバーの大工がコツコツ行う作業と運搬、解体、片付けのようにスタッフやボランティアで受け持つ作業とに棲み分けをしました。



関由有子氏

## 特定非営利活動法人 どんぐり 1000年の森をつくる会（宮崎県都城市）

活動のテーマ：「井戸」を掘り、どんぐり村での活動を拡大しよう

<報告概要>

子どもたちが自然を体感し創造力を育むことを目的に、大淀川流域で照葉樹の森の再生を行っている。井戸掘り、デッキの塗装等施設の整備で保護者の情報交換の場も創出し、家族での利用が増加した。今後も子どもを媒体にした様々な交流が広がる環境や仕組みを整えていきたい



報告者  
佐土原 裕一さん



**質問** 今回つくられた井戸やデッキ等の発案者は子どもですか？  
子どもの活動への関わり方を教えてください。

**回答** 施設内の遊具は60代のメンバーが昔遊んだものを再現しました。子どもたちは、どんぐり村に来るとひとりずいぶん土、水、葉を素材として自由に遊び始めます。水遊び場の整備では各人が好きな石をコンクリートに埋め込むなど、その時々を手伝ってくれました。



山下馨氏

## 市川マップの会（山梨県市川三郷町）

活動のテーマ：江戸時代の酒蔵を拠点に地域の歴史文化の情報発信

< 報告概要 >

まち歩きマップの作成や写真コンテスト等、地域の歴史・文化の伝承を目的とした活動を行っている。大学生の設計で、拠点の酒造蔵の外側と内側に舞台を設け多くの人が出会い集える空間へ改修した。伝統文化の講演、婚活パーティや地元の青年会議所の会議等、地元で酒造蔵の活用を根付かせたい



報告者  
一瀬 茂さん



鈴木輝隆氏

**質問** 今後の拠点の運営に伴う組織の在り方や財源の捻出などについてお教えてください。

**回答**

酒蔵を改修することに伴い、多くの人々が活動に関わるようになってきました。定期的な催しを行うなど今後の有効利用はうまくいこうと感じていますが、事業の承継が大きな問題だと感じます。メンバーと一緒に考えていきたいです。また、資金についてはお金がないから何ができないという状況ではありません。酒蔵の完成で周囲の見方が変化し、会議やイベントの開催の申し出が次々とあります。まちや周辺の人々が酒蔵を放っておかなくなると思います。

**質問**

地元の歴史文化に焦点を当てていることもあり、地元の若い人の関わりがあまりないようですし、拠点の周辺もまだ直さなければならない箇所があるようですが、どのようにお考えですか？

**回答**

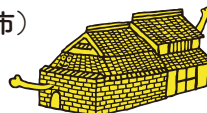
最近開催したイベントには若者も来場し、興味を持ってくれました。そのような人の中から次第に活動に関与してくれる人が出てくるのではないかと期待しています。

## 絵金のまち・赤岡町家再生活用プロジェクト（高知県香南市）

活動のテーマ：“あかおかびと”による赤れんが商家の再生活用

< 報告概要 >

赤れんが商家の再生を通して人材育成、持続的・地域振興、伝統木造文化・技術の継承を目指している。学生や専門家等多様な主体の連携で建物の清掃、修繕、調査、活用イベント、広報誌の発行を行った。住民主体の管理運営ネットワークの構築、空き家再生事業で地域ならではの継続的な活用を進めたい。



報告者  
北山 めぐみさん



鈴木輝隆氏

**質問**

建築士会や高知高専などが関わっていますが、継続性を念頭においた組織なのですか？

**回答**

継続を念頭において活動しています。昨年からはリテージマネージャーの育成が始まったこともあり、地域遺産を残す意識のある建築士が継続的に関わる環境が整いつつあります。また高専では、興味がある学生向けにカリキュラムを組みたいと考えています。赤れんが商家は、高専からは自転車ですぐにたどり着けるので、機動的な活動ができると考えます。

**質問**

建築物の責任者はどなたですか？

**回答**

高知高専が賃貸契約を結んでいます。来年度香南市に借り上げてもらい空き家再生事業が進む予定ですが、香南市からの貸し出しを受ける地域の運営主体をつくることに、少々ハードルの高さを感じます。

## 2016 年度助成対象団体の現況報告

### 荻窪家族プロジェクト

< 活動のテーマ >

地域開放型共同住宅を拠点に住民にも地域にも百人力を



報告者  
関屋 利治さん 瑠璃川 雅子さん

### 箱の浦自治会 まちづくり協議会

< 活動のテーマ >

箱の浦の事は箱の浦で解決を、住んで良かった箱の浦に



報告者  
岡 保正さん

### 竹所夢プラン

< 活動のテーマ >

竹所の景観統一の一環として外部に開かれた牛小屋再生



報告者  
五十嵐 富雄さん

### 特定非営利活動法人 八女空き家再生スイッチ

< 活動のテーマ >

まちと人、人と人がつながる旧八女郡役所 2018



報告者  
高橋 康太郎さん



# 全体意見交換会

いつもハッピーエンドで成功した話だけでなく、他団体の参考にもなるような課題と解決方策についても言及してほしいです。

丁志映氏（千葉大学 助教）



10年、20年というスパンでとらえて風を停滞させずに空気を動かしていくことが、NPOや一般社団法人などの中間団体が果たす役割なのではないかと思えます。

関由有子氏（せきゆうこ設計室 代表）



自分たちの活動だけに没頭せずに、振り返ること、冷静に他人の意見に耳を傾けることで活動の社会化が図れると思います。世の中で何が起きているのかを観察することが大切です。

山下馨氏（有限会社山下馨建築アトリエ 代表取締役）



地域や周辺を巻き込んでいる団体ほど継続性があり、普遍的課題の発掘・解決を意識しているように感じます。

久田見卓氏（財団 事務局長）



目標の実現を目指して、チームの中やチームを超えた力の合わせ方が大事だと思います。そのような力を合わせる際の資源の一つとして財団の助成金を活かしてもらいたいです。

窪田亜矢氏（東京大学 特任教授）



持続性は活動を担っている人に関わる問題で、リーダーが自分の欲を出さずに邪心がないと持続性や信頼度につながるように感じます。

鈴木輝隆氏（選考委員長 江戸川大学 特任教授）



長年活動している団体では構成メンバーや目標が多少違ってきますが、その時々メンバーがその時々テーマを遂行することが持続性につながっているように感じます。

高見澤邦郎氏（財団 顧問）



その他、当日の参加者からもたくさんの感想やご意見をいただきましたが、その一部を紹介します。

好きなことを好きなようにやっている活動が大事で、公共団体ではない財団は、そのような活動に助成する意義を重視すべきではないでしょうか。

小林郁雄氏（元選考委員長 兵庫県立大学 特任教授）

本交流会は、名称だけでは伝わらない苦労話を聞いて実質的な交流が図れることが有益だと思います。あのような人生を送りたいと思えるような人の話を聞けることはありがたいです。

神吉紀世子氏（元選考委員 京都大学 教授）

他に岡部明子氏、小場瀬令二氏、黒瀬武史氏、杉山昇氏からもコメントをいただきました。